

## 第6学年 図画工作科学習指導案

**題材名** 「鳥へのおくりもの」 (つくりたいものをつくる)

**本題材の指導にあたって**

このような題材で

- 本題材のねらいは、校内の木々に鳥たちが来てくれるような素敵な巣箱があればどんなに楽しいだろうという思いから、巣箱を工夫してつくり、環境に働きかけて生活をよりよくすることである。  
題材開発にあたっては、
  - ・ 巣箱づくりの取材をしたり、環境に働きかけるデザインハウスの資料を集めたりした。
  - ・ 切断や接合の技法を工夫して試作をした。
  - ・ アイディアスケッチや発泡スチロールによる試作の有効性を確認することを通して、題材開発の喜びを味わった。
- 主な指導の内容は、次の通りである。
  - ・ 学校を自分たちの手でより楽しくしたいと願い、校内の木々に鳥たちが喜ぶような巣箱を作ろうとすること。
  - ・ 自分の思いをもとに巣箱の形や色を工夫し、作品づくりの見通しをもつこと。
  - ・ 様々な木工具を用いた切断と接合の技法や、水性ペンキの使い方を工夫すること。
  - ・ 作品や活動の交流を通してつくりだす喜びを味わうこと。
- 本題材の価値は、次の通りである。
  - ・ 生活をより楽しくしたり、環境に働きかけたりする活動であること。
  - ・ 4年生の総合的な学習の時間「わたしたちの室見川」、6年生の国語「森へ」や理科「生き物と養分」などの学習から、生き物の共生や環境への働きかけを学んできたこと。
  - ・ アイディアスケッチや発泡スチロールによる試作を通して、見通しをもって自分の思いを表現することができること。
  - ・ 適度な手応えがあり、切断や接合すること自体を楽しむことができること。
- 教科書題材との関連については、次の通りである。
  - ・ 6年生図画工作科教科書下巻の「生まれ変わった板たち」(つくりたいものをつくる)と、木を切ったり接合したりして自分思いを表し、環境に働きかけることとつながりがある。
  - ・ 前学年題材の「パズルをつくろう」(つくりたいものをつくる)と、思いに合わせて板を直線や曲線に切り抜くこととつながりがある。

このような子どもだから

- 「わたしの町」において、校舎から見えるA町を、遠近法を用いてドライポイントで克明に表現した経験がある。描いた作品は満足できるものであり、友達の作品を鑑賞することで刺激を受け、より満足のいくものを描こうという意欲が高まった。参考作品を鑑賞することに興味を示し、作品のよさにも気づくことができる。
- これまでに、5年生で電動糸のこを使って作品を作り、4年生で板材を選んで室見川に飾りたいものを作った経験がある。
- 「環境に働きかけて生活をよりよくする」という観点から想像を働かせ、思いや願いを表現する経験は十分でない。

このような子どもに

- A小の木々を飾るために、進んで資料を集めたり、自分なりに工夫したりして、小さな巣箱づくりに関心をもつことができる。
- どこにどんな巣箱を飾るかを考え、想像豊かにアイディアスケッチをしたり、発泡スチロールで試作したりすることができる。
- 部品の作成や組み立て方、着色の工夫など見通しをもって、自分の思いを表現することができる。
- 作品を木に飾って鑑賞し、作品への思いについて交流しあい、よさを伝え合うことができる。

このような展開で

- |                     |   |  |
|---------------------|---|--|
| (1) 鑑賞活動 「主題をもつ」    | → | ○ A小に飛来する多くの鳥の写真や、環境に働きかけたいような学校の木々の写真を提示する。<br>○ 見る者を魅了し、住みたいようなデザインハウスの写真を提示する。  |
| (2) 鑑賞活動 「主題を明確にする」 | → | ○ つくりたい家のイメージを獲得できるような参考作品や、巣箱のある風景の写真を提示する。<br>○ 作品のイメージを立体的に捉えられるように発泡スチロールを使って試作する活動を提案する。<br>○ 互いのアイディアスケッチや試作品を鑑賞する交流活動を設定する。 |
| (3) 鑑賞活動 「主題を表現する」  | → | ○ 道具の使い方や技法等がわかる資料コーナーを設定する。<br>○ 水性ペンキの特性や色をつける技法等がわかる資料コーナーを設定する。  |
| (4) 鑑賞活動 「よさを認め合う」  | → | ○ 思いを確かめ、よさを認め合う交流活動を設定する。<br>○ 作品カード、鑑賞カードを使った交流活動を設定する。  |

指導計画 (全15時間)

学習過程	時間目	鑑賞活動	主な学習活動と内容	展開の工夫
感受・着想	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞活動 「主題をもつ」ための鑑賞活動</li> </ul>	<p>1 題材に出会い、参考作品や写真をもとにどこに作品を飾りたいか決めて創作意欲を高め、活動への見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">A小のどこにどのような巣箱を飾るか考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合的な学習の時間「Aの野鳥」(仮)とつなげて、室見川やA周辺に飛来する野鳥について話し合うこと。</li> <li>○ 参考作品や写真を見て、A小の木々を自分たちの手で楽しく飾りたいという思いを高めること。</li> <li>○ 街で見かけるデザインハウスを参考に、自分が住みたい家の思いをめぐらすこと。</li> <li>○ 実際に校舎の周りを歩いて、巣箱を飾れそうな場所を探すこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ A小に多くの鳥を呼びたいという興味・関心が高まるように、近隣に飛来する野鳥の写真を提示し、総合的な学習の時間で学習したことを想起させる。</li> <li>○ 環境に働きかけて生活をよりよくしたいという興味・関心が高まるように、学校の木々の写真や参考作品を提示する。</li> <li>○ 巣箱のイメージを膨らませ、構想をもてるように、参考作品を木に置いたり、気に入った場所がきまれば写真を撮って記録に残す。</li> <li>○ 自分の思いを表すことができるように、デザインハウスの資料をチラシや雑誌などから集めさせる。</li> </ul>
発想・構想	2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞活動 「主題を明確にする」ための鑑賞活動</li> </ul>	<p>2 構想を考え、巣箱のアイデアスケッチを描く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分の思いをアイデアスケッチに表そう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参考作品や写真、自分が集めた資料をもとにつくりたい巣箱への思いをとらえること。</li> <li>○ 形や色、材料について自分の思いを絵や文で表すこと。</li> <li>○ アイデアスケッチは、試作品をつくりながらよりよく変えていってよいこと。</li> </ul> <p>3 板と同じ大きさの発泡スチロールで試作する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">アイデアスケッチをもとに発泡スチロールで試作をして、巣箱づくりの計画を立てよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木は紙とは違い、厚みがあることをつかむこと。</li> <li>○ 自分の思いを立体的に表すこと。</li> </ul> <p>4 巣箱づくりの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木取り、切断、接合、彩色までの見通しをもつこと。</li> <li>○ より自分の思いを表せる製作過程を考えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いを表現できるように、参考になりそうな作品や家のモデル写真を提示する。</li> <li>○ 自分の思いを明確に表現できるように、アイデアスケッチを描く時に、個別の思いを聞いたり、参考作品や写真を提示したりする。</li> <li>○ 大きさや必要な材料のイメージをふくらませ、実際の作品に活かせるように、発泡スチロールで立体的に試作を作らせる。</li> <li>○ より自分の思いを表せる製作過程の見通しをもたせるために、巣箱づくりの具体的な計画を立てさせる。</li> </ul>

表 現	6	○ 鑑賞活動 「主題を表現する」ための鑑賞活動	5 計画に沿って自分の思いを表す巣箱をつくる。 道具の使い方に気をつけて、板を自分の思いにあった形に切断したり、接合したりしよう。	○ 自分の思いを表すことができるように、事前にアイディアスケッチに目を通して、必要な材料（木工用接着剤・釘・ペンキ・タイルなど）を用意する。	
	7		○ 無駄のない木取りをすること。	○ 無駄な木取りにならないように、よい例とよくない例を資料として提示する。	
	8		○ のこぎりや電動糸のこ、クランプ、げんのうなどの木工具の使い方について確かめること。	○ 自分の思いを表すことができるように、のこぎりや電動糸のこ、げんのう、木工用接着剤の使い方を確認できる資料コーナーを設置する。	
	9		○ 切断の技法に気をつけながら、木を切断すること。	○ 自分の思いを表すことができるように、のこぎりや電動糸のこ、げんのう、木工用接着剤の使い方を確認できる資料コーナーを設置する。	
	10		○ 接合の技法に気をつけながら、壊れないように丈夫に接合すること。	○ 自分の思いを表すことができるように、のこぎりや電動糸のこ、げんのう、木工用接着剤の使い方を確認できる資料コーナーを設置する。	
	11		○ アイディアスケッチを振り返りながら、必要に応じて副材料を付け加える工夫をしてもよいこと。 ・樹皮 ・木の枝 ・木の実など	○ 困った時の参考になるように、参考作品や写真は常に提示しておく。	
	12		○ 友達の作品のよさを鑑賞しながら、自分の作品を見直すこと。	○ 互いのよさを認め合い、より自分の表したいことが作品に表れるように、友達の作品を鑑賞する「鑑賞タイム」を設ける。	
	13		自分の思いをよく表せるように、色のつけ方を工夫しよう。 ○ 水彩絵の具で学んだ技法を生かして着色をすること。	○ 自分の思いを色で表せるように、水性ペンキで色をつける際の注意事項（ペンキの量やはけの使い方等）を伝え、演示する。	
	14				
	鑑 賞	15	○ 鑑賞活動 「よさを認め合う」ための鑑賞活動	7 自分や友だちの作品を選んだ場所に展示して、よさを味わう。 自分や友達の作品と活動のよいところを見つけ、伝え合おう。 ○ 自分や友達の作品のよさを作品カードや鑑賞カードに記入すること。	○ 児童が完成した喜びを味わえるように、作品カードや鑑賞カードに自分の思いを十分書くようにする。 ○ 作品のよさをじっくり味わうために、製作段階での苦労や思いを十分交流する。

## 第6学年 画工作科学習指導案（9／15）

**本時** 公開学習Ⅰ 場所：図工室

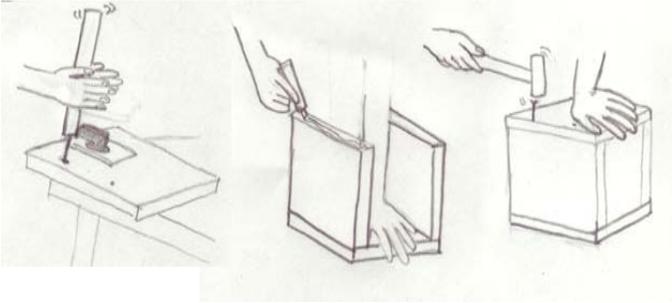
**本時の目標** ○ 表したい自分の思いをもとに、板を切断したり接合したりすることができる。

**授業仮説** ○ 自分の思いを十分表したいと思っている子どもたちに、資料提示や演示で切断と接合の仕方を示したり、互いの活動のよさを交流させたりすれば、板を自分の思いにあった形に切断・接合することができるであろう。

**準備** 児童 図工ノート、筆記用具、板材、試作品

教師 のこぎり、電動のこぎり、げんのう、釘、きり、クランプ、道具の使い方の資料、参考作品、評価補助簿

**本時展開**

主 な 学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
<p>1 前時を想起し、本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">                     道具の使い方に気をつけて、板を自分の思いにあった形に接合しよう。                 </div> <p>(1) 作品や図工ノートを振り返り、自分の思いを表すために切断で工夫したことを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木目よってのこぎりの歯を使い分けたこと。</li> <li>○ 細かいところは電動のこぎりを使ったこと。</li> <li>○ 互いの作品を鑑賞しあい、よさに気づくこと。</li> </ul> <p>(2) 接合に使う道具と接合の仕方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 用途に応じて釘の大きさや種類を変えること。</li> <li>○ 釘を打つところに、あらかじめきりで穴を開けておくこと。</li> <li>○ 木工用接着剤で仮留めをすること。</li> </ul> <p>2 板を自分の思いにあった形に切断したり接合したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 切断や接合の技法に気をつけながら、板を切断したり接合したりすること。</li> <li>○ 道具を選びながら、壊れないように丈夫に接合すること。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>3 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いがよく表れるように切断や接合で工夫したことを話し合うこと。</li> <li>○ 図工ノートを書き、次時への見通しをもつこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いを表すことができるように、板を切断しながら木取りに修正を加えてよいことを伝える。</li> <li>○ 安全に活動ができるように、道具を使った経験を想起させ、道具の特性を確認できるようにする。</li> <li>○ 自分の思いを表すことができるように、曲面は電動のこぎりで切断させ、電動のこぎりの使い方を資料提示と演示で確認させる。</li> <li>○ 板材が割れることを防ぐために、釘を打つ前にきりで小さな穴を開けさせたり、端を釘打ちさせないようにしたりする。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">  <p>接合部分の確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>接合の仕方</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>道具の使い方</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>鑑賞活動 「主題を表現する」</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道具の使い方の資料</li> <li>2. 切断と接合の仕方の資料</li> <li>3. 参考作品や互いの作品</li> </ol> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作業を効率的に進めさせるために、友達と協力して板の切断や接合をしてもよいことを助言する。</li> <li>○ 丈夫に接合させるために、接合する場所によって道具を選ばせ、木工用接着剤で仮止めや補強をさせる。</li> <li>○ 学習の足あとを残させるために、図工ノートに今日の学習をまとめさせる。</li> <li>○ 自分の思いを表すことができるように、必要に応じて副材料を付け加える工夫をしてもよいことを知らせる。</li> </ul>

# 第6学年 画工作科学習指導案（13／15）

**本時** 公開授業Ⅱ 場所：6年 教室

**本時の目標** ○ 表したい自分の思いをもとに、色のつけ方を工夫することができる。

**授業仮説** ○ 自分の思いを色で表現したいと思っている子どもたちに、水性ペンキでの色のつけ方を演示したり、互いの活動のよさを交流させたりすれば、自分の思いにあった彩色をすることができるであろう。

**準備** 児童 図工ノート、筆記用具、作品

教師 はけ、筆、マスキングテープ、紙ヤスリ、道具の使い方の資料、参考作品、評価補助簿

**本時展開**

主 な 学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
<p>1 前時を想起し、本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">自分の思いをよく表せるように、色のつけ方を工夫しよう。</p> </div> <p>(1) 作品や図工ノートを振り返り、自分の思いを表すために接合や着色で工夫したことを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紙ヤスリで着色面を磨いたこと。</li> <li>○ 混色で自分の思いに合った色を作り出したこと。</li> <li>○ 場所によって筆を使い分けたり、はけのタッチを工夫したりしたこと。</li> <li>○ 互いの作品を鑑賞しあい、よさに気づくこと。</li> </ul> <p>(2) 水性ペンキの特性や塗り方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 混色、重色することができること。</li> <li>○ はけや筆のタッチで自分の思いを表現することができること。</li> <li>○ スパッタリングなどの技法を工夫することができること。</li> </ul> <p>2 自分の思いにあった色をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 試しながら色を作ったり、選んだりしていくこと。</li> <li>○ 資料や参考作品をもとに自分の思いを表す方法を見つけること。</li> <li>○ マスキングテープを使って美しく仕上げること。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;">     </div> <p>3 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いがよく表れるように切断や接合で工夫したことを話し合うこと。</li> <li>○ 図工ノートを書き、次時への見通しをもつこと。</li> </ul>	<p>○ 自分の思いを表すことができるように、着色をしながら副材料をつけ加える工夫をしてもよいことを伝える。</p> <p>○ 水彩絵の具で培った経験を想起させ、水性ペンキでも同様の工夫が可能であることを助言する。</p> <p>○ 色が鮮やかに着くように、着色面を紙ヤスリで磨かせるようにする。</p> <p>○ 互いの作品のよさに気づかせるために、プロジェクターを使って作品を提示する。</p> <p>○ 自分の思いを表すことができるように、彩色の技法を示した資料を準備する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>・ぬり始め</p>  <p>ぬり始め</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>・はけの後始末</p>  <p>はけの後始末</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>鑑賞活動 「主題を表現する」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 混色、重色の資料</li> <li>2. はけや筆遣いの資料</li> <li>3. 参考作品や互いの作品</li> </ol> <p style="text-align: center;">はけの使い方</p>  </div> <p>○ 自分の思いにあった色を見つけられるように、色を試すシートを用意する。</p> <p>○ 自分の思いを表すことができるように、着色の資料コーナーを設ける。</p> <p>○ 色の重なりやはみ出しを防ぐために、マスキングテープを使わせる。</p> <p>○ 学習の足あとを残させるために、図工ノートに今日の学習をまとめさせる。</p> <p>○ 互いのよさを認めあえるように、鑑賞会を開くことを伝え、作品の仕上げと鑑賞会への意欲を高められるようにする。</p>

題材名

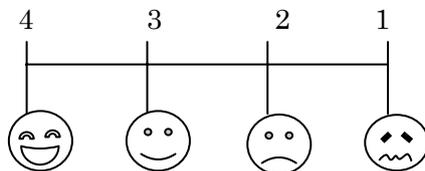
自分の思い（表したいこと）

イメージスケッチ

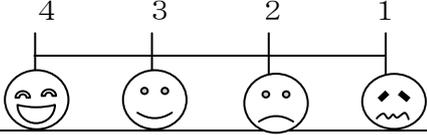
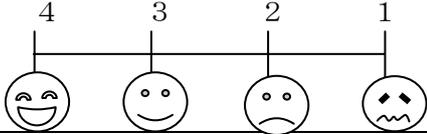
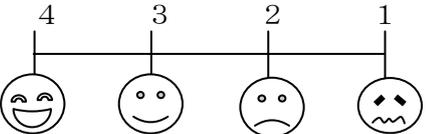
題名（作品ができあがってから少し変えていいです。）

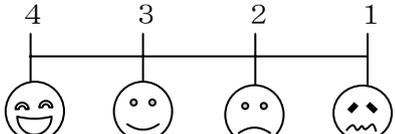
○ 自分の思いはうまく表せましたか。

○次にしたいことは何ですか。



4 （とてもよく表せた） 3 （まあまあ表せた） 2 （すこし表せなかった） 1 （表せなかった）

時	活動したこと（言葉・絵・写真など）	ふりかえり	先生から
6 ・ 7 ・ 8 表現Ⅰ		<input type="radio"/> 自分の思いはうまく表せましたか。   <input type="radio"/> 次にしたいことは何ですか。	
9 ・ 10 ・ 11 表現Ⅱ		<input type="radio"/> 自分の思いはうまく表せましたか。   <input type="radio"/> 次にしたいことは何ですか。	
12 ・ 13 ・ 14 表現Ⅲ		<input type="radio"/> 自分の思いはうまく表せましたか。   <input type="radio"/> 次にしたいことは何ですか。	

<p><b>鑑賞会 発表したいこと</b></p> <p>最後の一笔について</p> <p>自分の入りこみ方や色で工夫したこと。</p> 	<p>鑑賞会の写真</p> 
---	---